

インターネット、もっと使いやすく
BUFFALO



Home Network



家電とパソコンをつなぐ

デジタル家電の周辺機器分野へ



Home Network



Interim Business Report 2005
メルコグループ

デジタルホーム市場に向けて、 高まる周辺機器メーカーの役割...

株式会社メルコホールディングス
代表取締役社長 牧 誠



デジタルホーム市場に向けて発進

メルコグループは、これまでパソコンの周辺機器からインターネットの活用機器へと事業領域を拡大しながら成長してきました。「Eyeこれからの社会(3ページ)」で詳しく述べますように、今後、家電のデジタル化やホームネットワークの普及に伴い、デジタル家電の周辺機器市場ともいべき新たな市場が立ち上がってきます。当社グループはこれを新たな成長の機会ととらえ、パソコンとデジタル家電の橋渡し役として様々な製品やソリューションを提供してまいります。

これまでパソコンでのインターネットの利用が主であったホームネットワークにデジタル家電が加わり、デジタル

ホームが形成されていきます。その過程では、放送や録画・視聴に新しい利用方法が提案され、新しいビジネスチャンスが数多く生まれてきます。

当社グループは、パソコン周辺機器のトップメーカーとしての強みを活かし、関連事業への進出や異業種との提携による新しい事業への進出、あるいは、次世代のビジネスの芽を育てる社内ベンチャーなど「顧客ニーズへの先見性と、それを具現化する技術力」を武器に、グループの事業領域を拡大し「常に変化し続けるグループ」として企業価値の最大化を目指して前進してまいります。

きびしい市場環境下にも成長の芽

2004年夏、日本中がオリンピックに沸きました。家電業界は薄型で大画面のテレビ受像機やDVDレコーダの販売が好調に推移し、記録的な猛暑によるエアコンの販売増とあわせて活況を呈しました。

しかし、その反動でパソコン関連製品の市場は停滞し、特に個人向けの市場ではほとんどの製品が前

年割れとなる、業界全体にとって厳しい市場環境となりました。

当社グループは、懸命な販売努力により上半期の売上高は前年をわずかに上回ることができましたが、製品価格の低下もあり残念ながら利益は前年を下回りました。

しかし、この厳しい環境下でありながら、パソコンの増設用記憶装置である外付けハードディスク装置の売上高は前年比25%以上の伸びを見せました。これは、パソコン上で動画を使うユーザが増加しており、必要とする記憶容量が飛躍的に増加しているためです。

また、フロッピーディスクに代わる新しい記憶メディアとしてUSBフラッシュメモリの売上高も前年に比べ37%増加しました。小さくて持ち運びに便利のため、そのデザイン性も重要になります。今後、ユーザの心を捉えるデザインでさらなる売上拡大を目指すと共に

にBUFFALOブランドの認知度の向上を図ります。

上半期では多くの製品が売上高を伸ばすことができませんでしたが、下半期には需要も回復すると見込まれ、付加価値の高い製品の投入やすべての製品にわたる原価低減によって収益力の増大を図ります。

また、海外市場では、特に米国の市場に新たに投入したストレージ製品が好調に推移しており、国内の法人市場の開拓とあわせ個人需要の変化に左右されにくい企業体質の強化を目指します。

デジタルホーム市場育成に向けて

急速な普及を続けてきた無線LANですが、この上半期では、販売台数が前年並みに留まりました。これは、個人向けのパソコン販売が低迷し、無線LANの購入のきっかけが減少したことによるものです。これまで無線LANは、複数のパソコンを所有する世帯でインターネットを利用するために使われてきました。そのため2台目や3台目のパソコンの購入が無線LAN導入のきっかけになってきました。

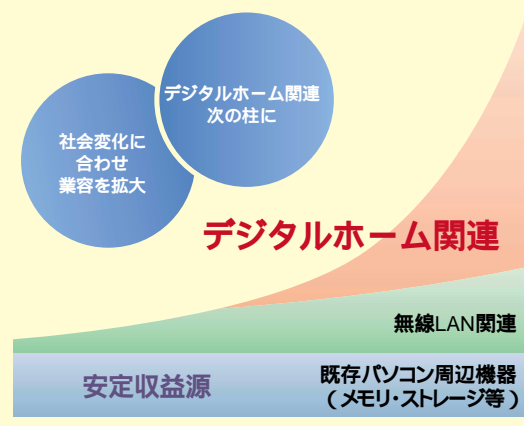
しかし、これからはホームネットワークにテレビなどの家電が加わり、パソコンの所有が1台のみの家庭でもホームネットワークが必要になるため、無線LAN市場の拡大が期待できます。

最近のTVチューナ付パソコンやハードディスク装置の販売増加は、動画を利用するユーザの増加を示しており、デジタルホーム市場の成長を予感させます。デジタルホーム市場では、無線LANとストレージや映像関連の機器を組み合わせることによって新しい使い方が生み出され、そこにまた新たな需要が出てきます。

当社グループは、このデジタルホーム市場において、パソコン周辺機器のトップメカとして培ってきた技術力を活かし、新しい提案による市場の育成とその市場でのプレゼンスの確保を目指します。

事業構造のフレームワーク

インターネット	ブロードバンド	ホームネットワーク	デジタルホーム	ユビキタスネットワーク
---------	---------	-----------	---------	-------------



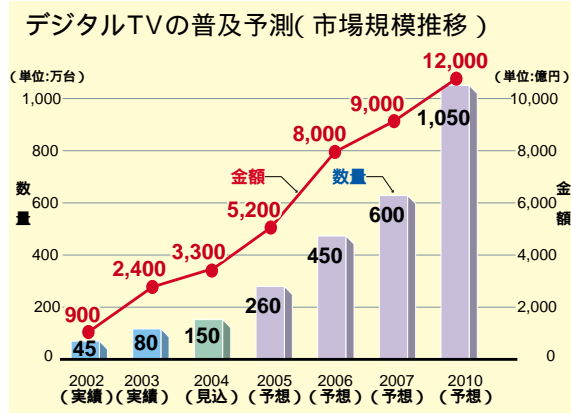
姿を見せ始めたデジタルホーム

始まるデジタル化の波

「デジタルが広げるユビキタス社会、次へ加速。」をテーマに、デジタル機器の総合展示会「CEATEC JAPAN 2004」が2004年10月に幕張メッセで開催されました。デジタル家電とブロードバンドネットワークが融合した製品やサービスが数多く出展され、豊かなデジタルライフがもう目の前に迫ってきていることが示されました。

大手家電メーカーはこぞって家電製品をネットワークに接続し、テレビ録画を離れた部屋で視聴したり、携帯電話からエアコンのスイッチをコントロールするといった具体的な提案を始めました。すでに発売されている製品もありますが、その多くは2005年～2006年の実用化を目指しており、デジタルホーム市場の本

格的な成長が見込まれる時機が明らかになってきました。



出典:富士キメラ総研

動画はすべてデジタル化される

今後、さまざまな家電製品やパソコンがホームネットワークで接続され、テレビ放送やインターネットが家中の各部屋で自由に使えるようになります。このような環境を整えた家をデジタルホームと言い、その普及の推進力となるのがデジタル化された動画になります。

現在のテレビはアナログ放送がほとんどですが、地上デジタル放送が全国で放送されるようになる2006年頃にはデジタル放送が主流になります。

ところで、最近では、テレビ放送を見ることのできるパソコンが多く販売されています。こうしたパソコンではアナログのテレビ放送をデジタル化して画面に映し

出したり保存したりします。また、インターネットを通じて配信されるビデオオンデマンドやブロードバンドストリーミングの場合はあらかじめデジタル化された動画が送られてきます。

では、何故デジタル化が進むのでしょうか。それはアナログに比べてデータの取扱が容易になるからです。また伝達できる情報量が格段に違います。放送がデジタル化されるのは、放送の質や利便性を向上させるとともに、利用する電波を節約し他の用途にも電波を有効利用しようというものです。実はこれまでパソコンやインターネットが普及するにつれて、世の中の情

報のデジタル化はかなり進んできました。そして、最後に残された大物ともいべき情報が映画やテレビ放送などの動画だったのです。情報量が飛躍的に増え

るネットワーク社会に向けて、動画のデジタル化は必然なのです。

便利なホームライブラリ

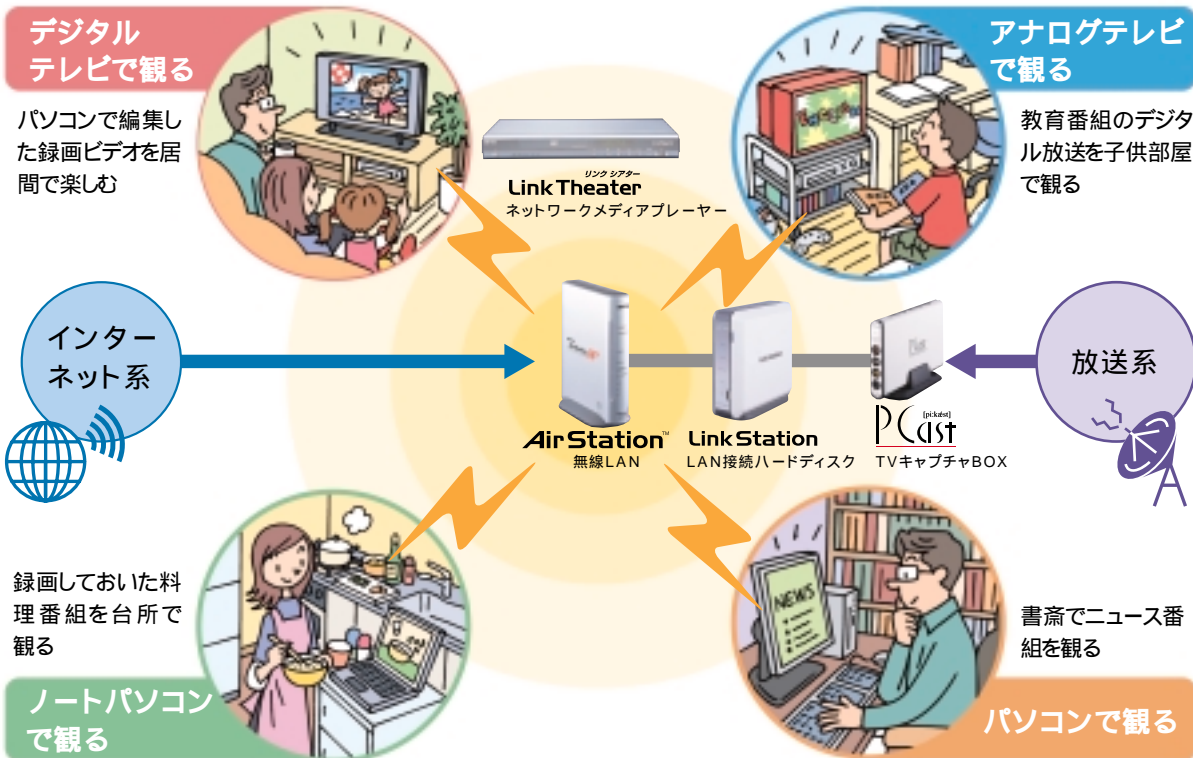
さて、動画がデジタル化されると私たちの生活にはどんな影響があるのでしょうか。

デジタルホームでは、録画したデータは、ネットワーク上のホームサーバに保存されホームライブラリになります。

ホームサーバは1台とは限りません。むしろ際限なく増え続ける動画データを保存するためには記憶装置を増設できることが重要です。

そして、どこに保存してあるかに関係なく洋画やト

楽しさ・便利さ広がるデジタルホーム



マのようなメニューを簡単に選び出して見るできるようになります。撮り貯めた動画が多くなればなるほど簡単に選び出せることが重要になります。そのため利用される記憶装置はハードディスクが中心になり、DVDはバックアップや持ち運び用になります。

普段はテレビで見ますが、録画を編集するにはパソコンを使います。動画の不要な部分をカットしたり

タイトルを付けるにはキーボードやマウスを使えるパソコンが便利だからです。また、不要になった録画を消去したり、並び順を換えるなどのメンテナンスもパソコンで操作します。

動画がデジタル化されパソコンとテレビがつながるからこそ、このような便利な使い方ができるようになるのです。

ホームネットワークの主流は無線LAN

デジタルホームでパソコンとテレビをつなぐのがホームネットワークです。ホームネットワークは、これまで複数のパソコンでインターネットを共有するために使われてきました。「インターネット白書2004」によると、家庭内の無線LAN利用者は、前年の1.8倍に増加しています。今後、無線LANがホームネットワークの主流になる見込みが鮮明になってきました。

これまでは、パソコンが1台しか無い家庭ではあまり

ネットワークは使われてきませんでした。しかし、テレビがパソコンとインターネットを共有できるようになるとネットワークを利用する家庭は急激に増加します。いずれは、すべての家電製品が無線LAN機能を標準搭載するようになるでしょうが、技術革新が激しい当面の間は、無線LANアダプタのような周辺機器を利用するのが一般的であると考えられます。

デジタル家電の周辺機器

一方で、これらの動画をデジタル化するための技術やネットワークで伝送する技術、またネットワーク内にある動画を一元的に管理し簡単に利用できるための方法などは、今世界中で研究されており進化の真最中です。今後も次々と新しい技術や方法が提案されていくことになります。

これまで、パソコンの世界では、新しい技術や機能を既存のパソコンに取り入れて使うために周辺機器が活躍してきました。家電の世界でも同様に、新しい機能が提案されるたびにテレビを買い替えるわけには

行きません。これからは、新旧の家電製品が混在する環境に対して、新しい機能を追加し使いやすくなるための周辺機器がどんどん登場していくことになります。

メルコグループは、ネットワークとストレージ（記憶装置）やグラフィック（画像表示：デジタルとアナログの変換）のすべての技術を有する世界でも有数の企業グループとして、豊かなネットワーク社会の形成に貢献してまいります。

メルコの原点は「ユーザニーズの具現化」 それを実践していく技術力...

世界標準規格を策定

現在、世界中で出荷されているパソコンのほとんどでDDR 型と呼ばれるメモリモジュールが使われています。これらのメモリモジュールの標準規格を策定しているJEDECで、パツファローの基板設計が世界標準規格として採用されています。現在パツファローでは、すでにノートパソコン用メモリモジュールの次の主力製品となるDDR に続いてDDR の標準規格策定を行っています。

メモリのトップブランドとして、今後も世界中のパソコンメーカーから採用される次世代メモリの世界標準規格の普及を目指します。



次世代DDR パソコン用メモリモジュール

世界標準機として無線LAN AirStationシリーズ

パツファローの無線LAN AirStation「WLI-CB-G54」は、高速無線LAN標準規格IEEE802.11gにおいて国内で初めて「Wi-Fi®」認定を受けるとともに、認定テスト機器(基準製品)として正式に採用されています。



「WLI-CB-G54」「Wi-Fi® CERTIFIED」

無線LANの接続・セキュリティ設定を自動化「AOSS™」

簡単設定システムAOSS™(AirStation One-Touch Secure System)は、初心者には難しかった無線LANの「接続設定」や「セキュリティ設定」を、対応した機器のボタンを押すだけで自動的に行える画期的な新技術です。

これにより、無線LANのユーザ層が飛躍的に拡大するとともに、セキュリティ機能の利用促進が図れます。今後デジタル家電など、パソコン以外の機器での利用も期待されます。



DDR / 「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMのデータ転送速度を倍速化する技術を利用したDRAMの品種。

メモリモジュール / 実際にパソコンなどでメモリを使用する際には、DRAMを基板上に配しメモリモジュールと呼ぶ部品にする必要があります。DRAMの種類や信号ピンの数や形状によりたくさんの種類があります。

JEDEC / 「Joint Electron Device Engineering Council」の略で電子部品の標準化を推進する世界的業界団体。

Wi-Fi® / 無線LAN規格の標準化団体である「WECA(Wireless Ethernet Compatibility Alliance)」の公式認定を受けている無線LANの相互接続/互換性認定のマーク

快適なホームネットワークを実現する 無線搭載製品を次々に発売

無線LANのトップブランドであるバッファローは、快適なホームネットワークを実現する無線LANに対応した製品を拡充しています。ネットワーク製品では外出先から自宅のパソコンにアクセスできるリモートアクセス機能を搭載し、高速性や様々な機能を強化した無線LANブロードバンドルータ「AirStationハイパワーモデル」を発売しました。ストレージ製品ではネットワーク対応のハードディスク「LinkStation」に無線LAN機能を搭載した新製品を発売しました。さらに、DVDドライブを搭載しネットワーク経由でテレビの再生・視聴ができるネットワークメディアプレーヤー「LinkTheater」に無線LAN機能を搭載したモデルをラインアップしました。

これらの製品は無線LAN簡単設定システム「AOSS™」に対応しているため接続やセキュリティの設定が自動的に行え、家庭でも簡単に安心して導入できます。複数台あるパソコンや周辺機器を無線LANでつなげると煩わしいケーブル配線がなくなり、録画したテレビ番組や撮影した画像などを家中どこからでも家族みんなで共有できます。当社は今後もお客様の使いやすさを追求し、それを実現する製品の開発に注力してまいります。



無線LANブロードバンドルータ



LAN接続ハードディスク



ネットワークメディアプレーヤー

インターネット無線スポットサービス 「FREESPOT」を拡充

バッファローは外出先でも手軽にインターネットを利用できる無線スポットサービス「FREESPOT/フリースポット」の普及・拡大を推進しています。ホテルや飲食店、観光地など様々な場所でFREESPOTが導入されていますが、2004年9月には登録数が2,000箇所を突破しました。その記念イベントとして、三重・鈴鹿サーキットで開催されたF1日本グランプリにおいて期間中のメイン会場にFREESPOTが導入されました。

また、2005年3月から9月に開催される国際博覧会「愛・地球博」においても、期間中にFREESPOTが導入される予定です。



デジタルホーム実現へ無線LAN 設定システム「AOSS™」普及を推進

バッファローの無線LAN簡単設定システム「AOSS™」が、三洋電機株式会社製のネットワークカメラ「ホームビューカメラ『HOVICA™』屋内用 無線/有線タイプ」に採用されました。

優れたユーザビリティを持つ「AOSS™」は煩雑な無線LANの接続・設定を自動的に行え、初心者でも簡単に強固なセキュリティを実現する画期的な技術です。今後もデジタル家電の周辺機器の担い手として、パソコン周辺機器だけでなくデジタル家電への「AOSS™」搭載を推進し、より便利で安全なネットワーク社会の発展に貢献してまいります。



ディズニーキャラクタのUSBメモリを発売

インターネットの普及により学校や家庭などの社会生活においてもパソコンが一般的に使われるようになり、そのユーザ層は一段と広がっています。こうした初心者ユーザの増加を新たなビジネスチャンスと捉え、BUFFALOは2004年11月にディズニーキャラクタを採用したメモリ製品を発売しました。製品の機能だけでなく、楽しさや新たな商材としての付加価値を提供します。

発売したのは世界的に有名なディズニーの「ミッキー・マウス、くまのプーさん、ティンカー・ベル、マリー」をデザインしたUSB2.0フラッシュメモリ「ディズニーフラッシュメモリ」です。同メモリは好きな音楽や写真、宿題から仕事のファイルまで様々なデータを手軽に持ち運びできるメディアとして人気が高まり需要が拡大しています。若年層や女性などの初心者ユーザが思わず使ってみたくなるキャラクタ製品の展開により、新規ユーザを獲得すると共に、贈答品やノベルティ商品としての活用など新たなニーズを引き出します。BUFFALOブランドの認知度向上を図り、さらなる市場拡大を目指してまいります。



© DISNEY

BUFFALO製品が 海外でも高い評価を獲得

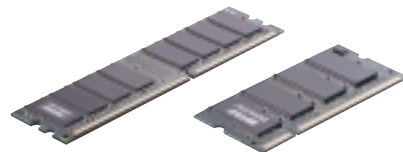
BUFFALOの無線LAN「AirStation」や各種パソコン周辺機器製品は、日本国内のみならず海外市場においても高い評価を受けています。これまで販路開拓に努めてきた海外市場では、米国において販売チャネルの見直しと製品ラインアップの強化が成果を出し始めています。特に無線LANに続いて販売を開始したストレージ製品が好調な出足を見せています。



表彰・取得	受賞製品
米国LAPTOP Magazine 誌 「Editor's Choice」賞	無線LANブロードバンドルータ「WHR-G54」
米国テレビ Tech TV 「Ibpick!」賞	LAN接続ハードディスク「LinkStation」
米国テクニカルサイトCnet.com 「Editor's Choice」賞	無線LAN AirStationのルータと リピータセットモデル「WBR-G54K」 LAN接続ハードディスク「LinkStation」
米国ゲームサイトGame Over Online 「Editor's Choice」賞	無線LAN AirStationメディアコンバータ 「WLI-TX1-G54」
英国PC Pro誌 「PC Pro Recommended」賞、「PC Pro A List」賞	無線LAN AirStationシリーズ
中国PC Professional誌 「Editor's Choice」賞	無線LANブロードバンドルータ AirStation「WBR-G54」
韓国最大のPC&IT情報webサイト K-Bench主催「K-Bench Best Product」賞	無線LAN AirStationシリーズ

地球環境の保護・保全に 対応する取り組み

地球環境の保護・保全への取り組みが世界的に高まっています。BUFFALOは2001年1月に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を取得するとともに、グリーン購入法に基づくパソコン周辺機器を製品化しています。また、2004年6月にはEU圏における法令「RoHS指令」の鉛使用規制に適合する鉛フリーメモリモジュール47製品の発売を開始しました。当社は製品の開発・生産・サービスの各活動において環境保全に努めてまいります。



鉛フリーメモリモジュール

変化し続ける企業グループ

変化の激しい事業領域

メルコグループのコアビジネスは、パソコンやインターネットに関連する変化の激しい分野を事業領域としています。今後は、デジタル家電の活用機器へとさらに事業領域を拡大し成長していきます。

これらの分野は、技術革新のスピードが速く世界中で次々と新しい要素技術が開発されます。それらをいち早く取り入れ、独自の技術やノウハウを駆使してエンドユーザの必要とする製

品を開発していきます。

そこには、最先端の技術に関する研究や世界中の部品メーカーとの連携が必要なだけでなく、ユーザニーズに対する先見性が重要です。新技術を単なる新技術に終わらせず、ユーザサイドの変化を見越した提案を製品に盛り込むことによって、新たなユーザニーズを喚起することにつながります。

変化への対応力を高める新体制

パソコン、インターネット、デジタル家電とメルコグループのユーザ層はどんどん拡大しユーザニーズも多様化しています。新しいユーザ層にはこれまでとは違った体系の製品群やサポートの方法、あるいは新しい販路など、今までとは違った展開が必要になってきます。そのためには、ブランドの複数化や新しい会

社も必要になってきます。

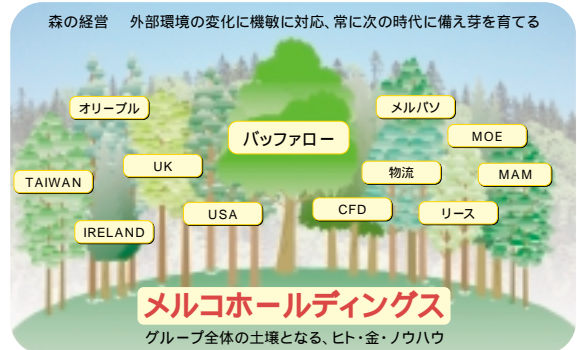
メルコグループは、2003年10月1日、持株会社体制に移行しました。今後、デジタルホーム関連分野を始めとする新事業の開拓や事業の分社化、新会社の設立、異業種との提携など、新たなグループの成長段階に進みたいと考えます。

森の経営

この純粹持株会社体制への移行の長期的な狙いは、大きな市場の変化に対し、これまで以上に迅速に対応できる経営体制を構築し、継続的な成長と収益の拡大を通じて企業価値の増大を図るグループ経営を行うことにあります。

これは、今までの単一の急成長型企業から複合的な長期成長企業群としての経営形態への移行を目指したもので、グループの経営をその生命力になぞらえ、森をイメージしたものにしていこうとします。森の木々は一つ一つ独立していますが、その集合体で森を形成しています。例えば一本が朽ち果ててもそれを補完する木々が育ち、依然として森を形作っています。このように、それぞれが小さな組織でも一タラシとしては、大きな力を柔軟に発揮できる。これがメルコグループの目指す「森の経営」であります。

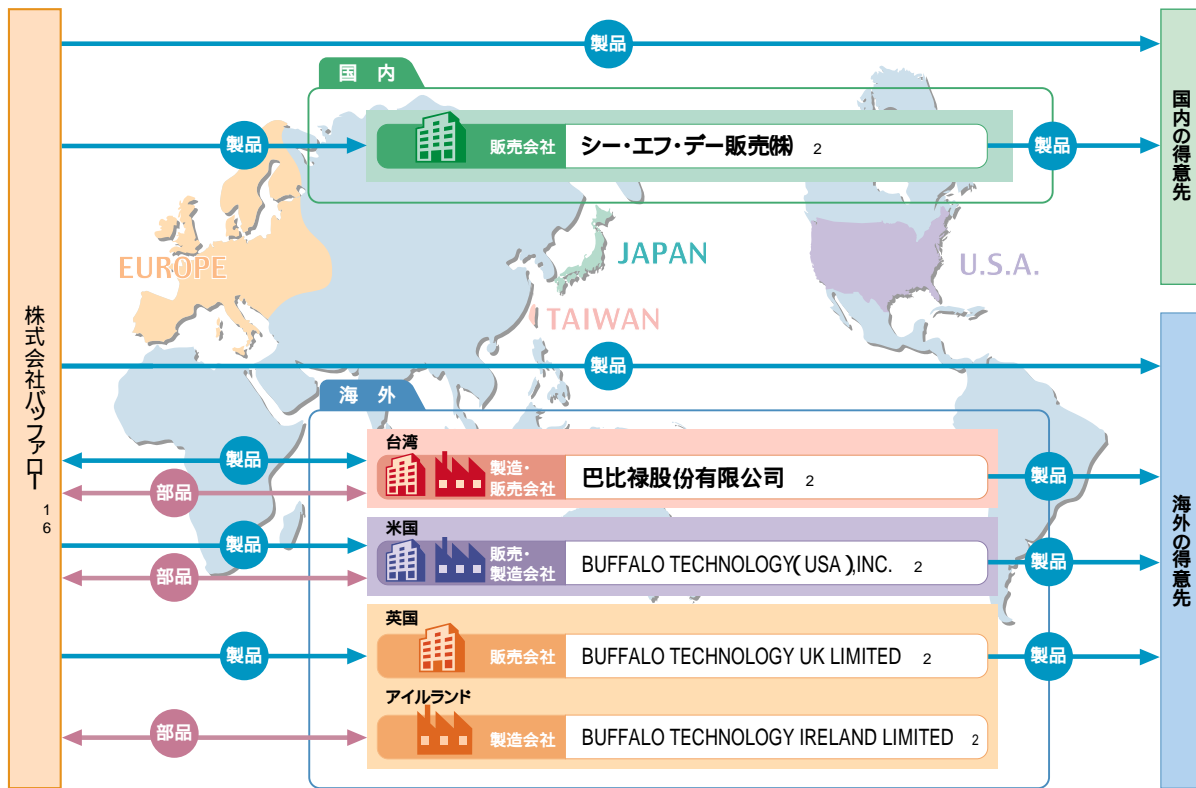
今後、メルコグループは、その存在意義を確かなものに保ち続け、何世紀にもわたり全てのステークホルダー(関係者)の皆様のために、メルコグループの存在価値を高めていくことを目指します。



メルコグループ系統図

メルコグループは㈱メルコホールディングス及び連結子会社12社により構成されています。コンピュータ周辺機器の開発・製造・販売、インターネット関連サービス及びそれに付帯する事業を行っています。

株式会社メルコホールディングス(持株会社) 1



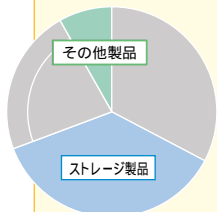
その他の事業

物流会社 ㈱バッファロー物流 3	ブロードバンド関連機器のレンタル ㈱バッファローリース 3	人材派遣会社 ㈱メルコパーソナルサポート 4
資金の運用助言 MELCO ASSET MANAGEMENT LIMITED 5	販売会社 オリーブネット ㈱ 3	販売会社 ㈱メルコオンラインエンターテインメント

1 ㈱メルコホールディングスと㈱バッファロー(旧社名 ㈱メルコ)は、2003年10月1日に株式交換により㈱バッファローを100%子会社とする持株会社体制に移行しました。
 2 2004年3月31日にシー・エフ・デー販売㈱、巴比祿股份有限公司、BUFFALO TECHNOLOGY(USA),INC.、BUFFALO TECHNOLOGY UK LIMITED、BUFFALO TECHNOLOGY IRELAND LIMITEDが、㈱バッファローの子会社から㈱メルコホールディングスの直接出資する子会社に異動しました。
 3 2004年6月9日に㈱バッファロー物流、㈱バッファローリース、オリーブネット㈱は、㈱バッファローの子会社から㈱メルコホールディングスの直接出資する子会社に異動しました。
 4 2004年6月24日に㈱メルコパーソナルサポートを設立しました。
 5 2004年8月9日にMELCO ASSET MANAGEMENT LIMITEDを設立しました。
 6 2004年8月24日に㈱バッファローと㈱メルコファイナンスは合併しました。

デジタルホーム製品

デジタルホーム市場に向けて、パソコンとテレビの橋渡しをする周辺機器を製品化しています。LAN接続ハードディスクは複数のパソコンで画像やデータ、プリンタを共有できる記憶装置です。家庭内では無線LANとつないで、いつでもどの部屋からでもデータを取り出すことができます。テレビ放送をパソコンで読み込むTVキャプチャ、パソコンの映像や音楽データをテレビで視聴できるメディアプレーヤーがあります。製品分類としては、ストレージ製品とその他製品に含まれています。



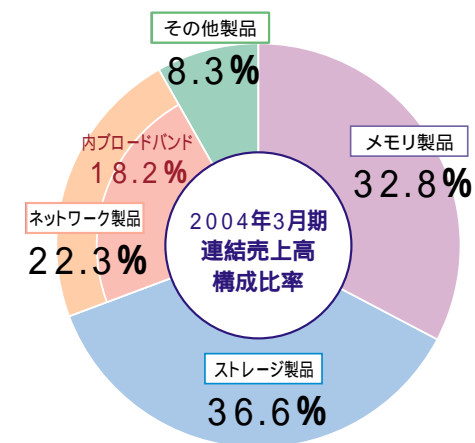
LAN接続ハードディスク



TVキャプチャBOX



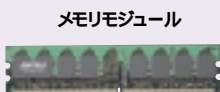
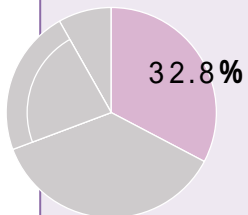
ネットワークメディアプレーヤー



メモリ製品

売上高 | 339億63百万円(2004年3月期連結実績)

メモリはデータを記憶する装置で、パソコン内で書き込みや集計などの作業を行うスペースです。容量が大きいメモリほど作業場が広くなり、効率良く速く処理することができます。フラッシュメモリは電源がなくてもデータを保存できるメモリです。デジタルカメラのフィルムとして利用されているスマートメディアやコンパクトフラッシュは、フラッシュメモリを利用した記録メディアです。



メモリモジュール



USBフラッシュメモリ



コンパクトフラッシュ

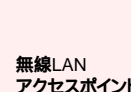
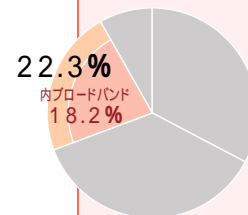


カードリーダーライター

ネットワーク製品 / ブロードバンド

売上高 | 231億66百万円(2004年3月期連結実績)

複数のパソコンをLANアダプタやハブ、ルータなどのネットワーク製品で接続すると便利な使い方ができます。1台のハードディスクを複数のパソコンで共有して、各パソコンからデータを読み出すことができます。無線LANは煩わしいケーブル配線が必要なく、無線でネットワーク接続します。ノートパソコンを自由に持ち歩いて、家中どこでもインターネットを活用することができるようになります。



無線LANアクセスポイント



無線LANカード



ブロードバンドルータ

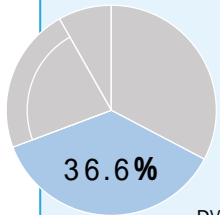


スイッチ

ストレージ製品

売上高 | 379億77百万円(2004年3月期連結実績)

ストレージはデータを保存する記憶装置です。ハードディスクはソフトウェアやデータ、画像などを保存する装置で、パソコンの中に内蔵されているタイプやパソコンの横に置いて使用する外付タイプがあります。DVDドライブは大容量のデータを保存できる記録ディスクで、映画メディアとして一般的になってきました。その他、CD-RWドライブ、MOドライブなど様々な記憶装置があります。



DVDドライブ



ハードディスク



ポータブルハードディスク



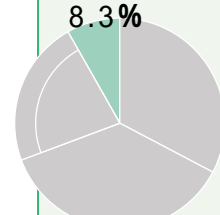
LAN接続ハードディスク



その他製品

売上高 | 85億96百万円(2004年3月期連結実績)

その他製品にはマルチメディア関連製品やサービス事業があります。パソコンにTVキャプチャを増設すると、テレビの視聴や録画ができるようになります。パソコンの情報を表示する液晶ディスプレイは薄型省スペース・省電力で主流となっています。サービス事業としてはバッファローサービスアライアンスを組織し、インターネットの設定サービスを行っています。



インターネット設定サービス
(バッファローサービスアライアンス)

TVキャプチャBOX

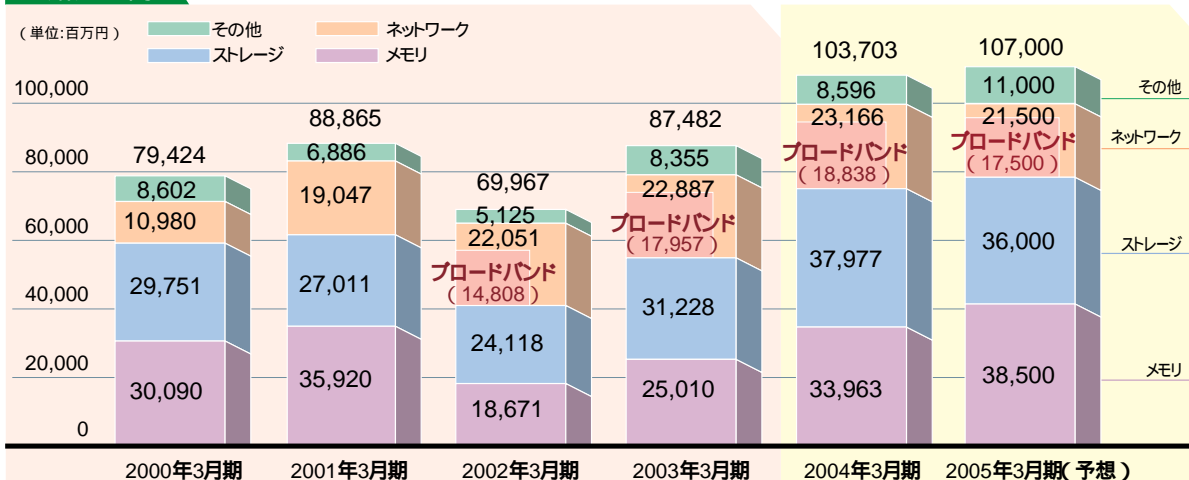


液晶ディスプレイ



連結売上高

注) 2003年3月期以前については、比較のため株式会社バッファロー(旧社名 株式会社メロコ)の連結数値を記載しています。



注) 2002年3月期よりネットワークの内、無線LAN等ブロードバンド関連製品を分けて、ブロードバンドとして算出しています。

2004年9月中間期 連結売上高の概況

メモリ

メモリ製品は市場拡大を続けるUSBフラッシュメモリの出荷台数が前年比64%増加しました。メモリモジュールは市場低迷ながら高いブランド力を背景にシェアを伸ばすことができました。連結売上高は前年比13.0%増の174億14百万円となりました。

ストレージ

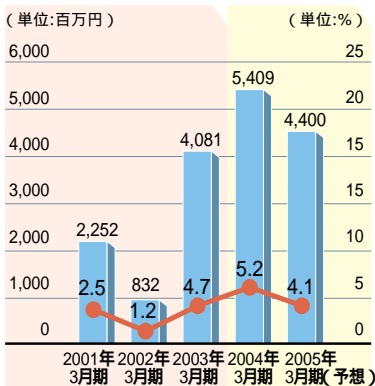
ストレージ製品はDVDやCD-RW、MOなどの光記憶装置の売上高が減少した一方、ハードディスク装置の売上増加がありました。連結売上高は前年比5.3%減の178億55百万円となりました。ハードディスク装置の売上増は動画利用の活発化によるもので、この増加傾向は今後も継続するものと思われます。

注) 前年比は比較のため、(株)バッファローの連結数値

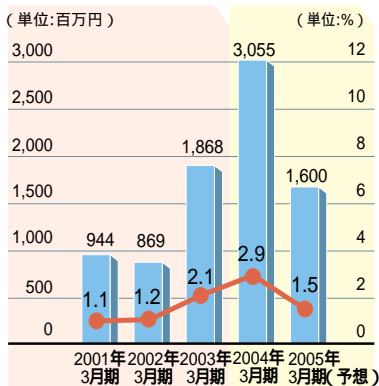
ネットワーク/ブロードバンド

ネットワーク製品は無線LAN導入のきっかけとなる個人向けのパソコン販売の停滞や個人情報漏洩問題などによる新規ブロードバンド回線の加入者数減少などにより売上高が伸び悩みました。連結売上高は前年比18.7%減となる97億21百万円となりました。

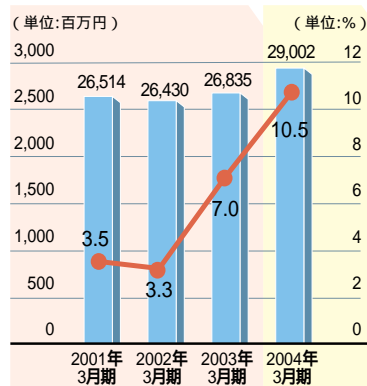
連結経常利益と連結売上高経常利益率



連結当期純利益と連結売上高当期純利益率



連結株主資本と連結株主資本当期純利益率



㈱メルコホールディングスと㈱パフアローは2003年10月1日に株式交換により、㈱パフアローを100%子会社とする持株会社体制に移行しました。2004年3月期の連結業績は㈱パフアローの連結業績(2003年4月1日～2004年3月31日)に、㈱メルコホールディングスの株式交換後から2004年3月期末(2003年10月1日～2004年3月31日)までの単独業績を加え算定しています。

前中間期については、比較のため㈱パフアロー(旧社名 ㈱メルコ)の連結数値を記載しています。

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		2004年 9月30日現在	2003年 9月30日現在	2004年 3月31日現在
(資産の部)				
流動資産		33,343	31,150	37,390
固定資産		12,602	13,907	11,753
有形固定資産		2,005	2,980	2,015
無形固定資産		71	84	92
投資その他の資産		10,524	10,841	9,645
資産合計		45,945	45,057	49,143
(負債の部)				
流動負債		15,374	16,348	19,330
固定負債		864	799	808
負債合計		16,239	17,148	20,139
(少数株主持分)		2	-	1
(資本の部)				
資本金		1,000	6,400	1,000
資本剰余金		11,677	6,344	11,677
利益剰余金		17,253	15,281	16,849
その他有価証券評価差額金		43	85	236
為替換算調整勘定		268	200	287
自己株式		1	1	0
資本合計		29,704	27,909	29,002
負債・少数株主持分及び資本合計		45,945	45,057	49,143

中間連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		自2004年4月1日 至2004年9月30日	自2003年4月1日 至2003年9月30日	自2003年4月1日 至2004年3月31日
資本剰余金期首残高		11,677	7,593	7,593
資本剰余金増加高/株式交換		-	-	5,333
資本剰余金減少高/自己株式消却額他		0	1,249	1,249
資本剰余金中間期末(期末)残高		11,677	6,344	11,677
利益剰余金期首残高		16,849	14,260	14,260
利益剰余金増加高/中間(当期)純利益		669	1,253	3,055
利益剰余金減少高/配当金他		265	232	466
利益剰余金中間期末(期末)残高		17,253	15,281	16,849

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		自2004年4月1日 至2004年9月30日	自2003年4月1日 至2003年9月30日	自2003年4月1日 至2004年3月31日
売上高		50,383	50,313	103,703
売上原価		44,495	44,194	89,886
販売費及び一般管理費		4,410	4,161	8,589
営業利益		1,477	1,957	5,228
営業外収益		112	94	367
営業外費用		80	32	186
経常利益		1,509	2,019	5,409
特別利益		23	14	-
特別損失		139	64	1,262
税金等調整前中間(当期)純利益		1,393	1,969	4,147
法人税、住民税及び事業税		648	698	1,254
法人税等調整額		74	17	161
少数株主利益又は少数株主損失()		0	-	1
中間(当期)純利益		669	1,253	3,055

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		自2004年4月1日 至2004年9月30日	自2003年4月1日 至2003年9月30日	自2003年4月1日 至2004年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		338	1,188	3,586
投資活動によるキャッシュ・フロー		847	252	260
財務活動によるキャッシュ・フロー		213	185	512
現金及び現金同等物に係る換算差額		27	28	53
現金及び現金同等物の増減額(減少は)		694	778	3,280
現金及び現金同等物の期首残高		9,035	5,746	5,746
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高		-	-	8
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		8,340	6,524	9,035

メルコグループは持株会社である株式会社メルコホールディングス及び連結子会社12社で構成されています。

株式会社メルコホールディングス

2004年9月30日現在

会社概要			
商号	株式会社メルコホールディングス	英文社名	MELCO HOLDINGS INC.
設立	1986年(昭和61年)7月1日		
代表者	代表取締役社長 牧 誠	資本金	10億円
売上高	連結 1,037億3百万円 (2004年3月期実績)		
事業内容	メルコグループの純粋持株会社 各種事業を営む会社の株式を所有し、事業活動の支援、経営指導を通じ統括管理する		
従業員数	24名、メルコグループ連結 677名	グループ企業	会社数 12社(国内7社、海外5社)
取引銀行	UFJ、名古屋	U R L	http://melco-hd.jp/

役員	
代表取締役社長	牧 誠
専務取締役	斉木 邦明
常務取締役	牧 博道
取締役	牧 廣美
取締役	津坂 巖
常勤監査役	小林 清史
監査役	西川 俊男
監査役	川島 讓
監査役	隅 朝恒

事業所

本社 〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目11番50号 カミヤビル

TEL. 052-251-6891 FAX. 052-241-7979

株式会社バッファロー

2004年9月30日現在

会社概要			
商号	株式会社バッファロー	英文社名	BUFFALO INC.
創業	1975年(昭和50年)6月1日		
設立	1978年(昭和53年)8月5日		
代表者	代表取締役会長 牧 誠	資本金	64億円
売上高	1,016億86百万円 (2004年3月期実績)		
事業内容	パソコン及びブロードバンド 関連機器の開発・製造・販売及び 関連サービスの提供		
従業員数	388名	取引銀行	UFJ、名古屋、伊予、東京三菱、UFJ信託
U R L	http://buffalo.jp/		

役員	
代表取締役会長	牧 誠
取締役社長	斉木 邦明
常務取締役	牧 博道
取締役	豊岡 誠史
取締役	西岡 孝行
取締役	山口 英利
常勤監査役	小林 清史
監査役	津坂 巖
監査役	小出 隆志
監査役	隅 朝恒

事業所

本社 〒457-8520 名古屋市南区柴田本通四丁目15番
 東京本社 〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目2番5号 栄太楼ビル
 本社分室 〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目11番50号 カミヤビル
 名古屋支店 〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目11番50号 カミヤビル
 大阪支店 〒542-0012 大阪市中央区谷町九丁目1番18号 住友生命谷町ビル
 仙台営業所 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡四丁目5番22号 宮城野センタービル
 福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東三丁目12番1号 アバンダント95
 札幌営業所 〒060-0031 札幌市中央区北一条東一丁目4番1号 サン経成ビル

TEL. 052-619-1811 FAX. 052-619-1800
 TEL. 03-3242-7777 FAX. 03-5203-8551
 TEL. 052-251-6891 FAX. 052-241-7979
 TEL. 052-249-6600 FAX. 052-249-6601
 TEL. 06-6191-1511 FAX. 06-6191-1510
 TEL. 022-291-0311 FAX. 022-298-9470
 TEL. 092-477-3711 FAX. 092-477-3755
 TEL. 011-200-8150 FAX. 011-200-8151

	会社名	資本金	持株比率	事業内容
日本	シー・エフ・デー販売株式会社	98百万円	100%	インターネット関連機器及びコンピュータ周辺機器の販売
	〒457-8520 名古屋市南区柴田本通四丁目15番 TEL.052-619-1311 FAX.052-619-7785			
	株式会社バッファロー物流	70百万円	100%	製品の梱包・出荷業務
	〒456-0023 名古屋市熱田区六野二丁目1番3号 中京倉庫内33号棟 TEL.052-883-3035 FAX.052-883-3042			
	株式会社バッファローリース	98百万円	100%	インターネット関連機器のレンタル及びリース
	〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目2番5号 TEL.03-5203-8199 FAX.03-5203-8551			
	オーブルネット株式会社	11百万円	88.2%	インターネット関連機器及びコンピュータ周辺機器の販売
	〒456-0023 名古屋市熱田区六野二丁目1番3号 中京倉庫内 TEL.052-882-3302 FAX.052-882-3302			
株式会社メルコオンラインエンターテインメント	10百万円	90%	インターネットゲームスポットの運営	
〒101-0021 東京都千代田区外神田三丁目14番3号 福栄秋葉原ビル TEL.03-3252-4141 FAX.03-3252-4141				
株式会社メルコパーソナルサポート	10百万円	100%	人材派遣事業	
〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目11番50号 カミヤビル TEL.052-251-6823 FAX.052-241-7979				

	会社名	資本金	持株比率	事業内容
アジア	巴比禄股份有限公司	100百万台湾ドル	100%	インターネット関連機器及びコンピュータ周辺機器の製造、販売
	4F, NO.18, LANE609, SEC.5, CHUNG HSIN RD., SANCHUNG CITY, TAIPEI HSIEN, TAIWAN TEL.886-2-2999-9860 FAX.886-2-2999-2264			
米国	BUFFALO TECHNOLOGY (USA), INC.	3米ドル	100%	インターネット関連機器及びコンピュータ周辺機器の販売、製造
	4030 West Braker Lane, Suite 120, Austin, TEXAS 78759-5319 U.S.A. TEL.1-512-794-8533 FAX.1-512-794-8520			
欧州	BUFFALO TECHNOLOGY UK LIMITED	5,728千米ドル	100%	インターネット関連機器及びコンピュータ周辺機器の販売
	176 Buckingham Avenue, Slough, Berkshire SL1 4RD, United Kingdom TEL.44-1753-555-000 FAX.44-1753-535-420			
	BUFFALO TECHNOLOGY IRELAND LIMITED	790千ユーロ	100%	インターネット関連機器及びコンピュータ周辺機器の製造
	East Park, Shannon Free Zone, Shannon, Co.Clare, Ireland TEL.353-61-708090 FAX.353-61-360140			
	MELCO ASSET MANAGEMENT LIMITED	10万ユーロ	100%	資金の運用助言
East Park, Shannon Free Zone, Shannon, Co. Clare, Ireland TEL.353-61-708032 FAX.353-61-360140				

▶メルコグループの歩み

沿革		事業 / その他	
音響機器製品の製造・販売を目的としてメルコを設立	8月	1978	8月 糸ドライブプレーヤーを発売
		1981	7月 パソコン周辺機器市場へ本格参入
		1982	11月 プリント内蔵型のプリンタバッファを発売
名古屋市天白区に(有)バッファロー(現(株)メルコホールディングス)を設立	7月	1986	
		1988	10月 わが国初のEMSポートを発売
梱包・物流業務を独立し、(株)バッファロー物流を設立	9月	1990	
(株)メルコ(現(株)バッファロー)が日本証券業協会へ店頭登録	10月	1991	
(株)メルコが(株)メルコインターナショナル(現(株)バッファローリース)を設立	10月		
(株)メルコが名古屋市南区に技術開発拠点として	1月	1992	7月 CPUアクセラレータを発売
ハイテクセンター(現(株)バッファロー本社)を開設			8月 LANを発売
台湾連絡事務所を現地法人化し、巴比禄股份有限公司を設立	6月		
		1993	5月 ウィンドウ・アクセラレータを発売 マルチメディア分野へ本格参入
			10月 PCBテックノロジー・アワードで最優秀賞を受賞
		1994	2月 ハードディスクを発売/パソコン周辺機器の総合メーカーへ
(株)メルコが名古屋証券取引所市場第二部に株式を上場	1月	1995	9月 (株)メルコが品質保証の国際規格ISO9001の認証を取得
(株)メルコが東京証券取引所市場第二部に株式を上場	8月		11月 DOS/パソコンネットワークパソコンを発売 パソコンコンポーネントメーカーへ
(株)メルコが東京証券取引所、名古屋証券取引所市場第一部に株式を上場	9月	1996	10月 液晶ディスプレイを発売
(株)メルコが近畿システムサービス(株)現シー・エフ・デー販売(株)を子会社化	10月		
(株)メルコが事業部制を導入	10月	1997	
(株)メルコがTechWorks(Delaware),Inc.	1月	1998	
(現BUFFALO TECHNOLOGY(USA),INC.)を子会社化			
(株)メルコがTechWorks(UK)Limited	12月		
(現BUFFALO TECHNOLOGY UK LIMITED)を子会社化			
(株)メルコがTechWorks(Ireland)Limited			
(現BUFFALO TECHNOLOGY IRELAND LIMITED)を子会社化			
(株)メルコファイナンスが有価証券の運用業務を開始	8月	1999	1月 無線LAN市場に参入 「AIRCONNECT」を発売
(有)バッファローが株式会社に組織変更	10月		11月 Rambus対応メモリを発売
		2000	4月 無線LAN「AirStation」を発売
			10月 DDR対応ノートパソコン用メモリの世界標準規格を開発
(株)メルコがサービス組織バッファローサービスアライアンスを結成	1月	2001	1月 インターネットのサービス事業を開始
リユース事業の合併会社デジタルリユース(株)を設立	3月		1月 (株)メルコが環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得
販売会社オリーブネット(株)を設立	5月	2002	7月 インターネット無線スポットサービスを推進する「FREESPOT」を開始
			12月 LAN接続ハードディスク「LinkStation」を発売
(株)バッファローリースがブロードバンド関連機器のレンタル事業を開始	3月	2003	3月 ブロードバンド関連機器のレンタル事業開始
(株)バッファローが(株)メルコホールディングスに商号変更、	5月		12月 サービス組織「BSALレディース設定サービス」を結成
名古屋市中区に本店を移転			
(株)メルコが(株)バッファローに社名変更、名古屋市南区に本店を移転	10月		
(株)メルコホールディングスと(株)バッファローが株式交換、持株会社体制に移行	10月		
(株)メルコホールディングスが東京証券取引所、	10月		
名古屋証券取引所市場第一部に株式を上場			
(株)メルコオンラインエンターテインメントを設立	10月		
シー・エフ・デー販売(株)、巴比禄股份有限公司、BUFFALO TECHNOLOGY (USA), INC.,	3月	2004	1月 デジタルホームソリューションズ事業部を新設
BUFFALO TECHNOLOGY UK LIMITED, BUFFALO TECHNOLOGY IRELAND LIMITED,			2月 ネットワークメディアプレーヤー「LinkTheater」を発売
の5社を、(株)バッファローの子会社から(株)メルコホールディングスの直接出資する子会社に異動			4月 無線LAN「AirStation」が累計出荷500万台を達成
(株)バッファロー物流、(株)バッファローリース、オリーブネット(株)の3社を、	6月		7月 パソコンサプライ事業に参入
(株)バッファローの子会社から(株)メルコホールディングスの直接出資する子会社に異動			9月 無線スポットサービス「FREESPOT」が登録2000箇所を突破
人材派遣会社として(株)メルコパーソナルサポートを設立	6月		
資金運用助言会社としてMELCO ASSET MANAGEMENT LIMITEDを設立	8月		
(株)メルコファイナンス(株)バッファローに合併			

Investor Information

社名の由来

メルコグループは2003年10月1日に株式会社メルコホールディングスを純粋持株会社とする持株会社体制に移行しました。同時に株式会社メルコは社名とブランドを統一するために、株式会社バッファローに社名変更しました。ユーザの皆様にも名付けられ、育てられた「BUFFALO」というブランドを事業会社の社名としました。

MELCO

「メルコ」は「牧技術研究所」を意味しています。

MELCO
Maki
Engineering
Laboratory
Company

アルファベットで表す「MELCO」のMは創業者で株式会社メルコホールディングス代表取締役社長 牧 誠(まき まこと)の姓である「Maki」、Eは技術力の「Engineering」、Lは研究所の「Laboratory」、COは会社の「Company」の頭文字をとり、創業の1975年に会社名としています。

BUFFALO

「バッファロー」はパソコン周辺機器「プリンタバッファ」に由来しています。

BUFFALO

昔のプリンタは印刷中はパソコンが使えず、印刷終了まで待たなければならぬ不便がありました。プリンタバッファは印刷指示をいったんメモリに蓄えてパソコンを即座に開放するため、印刷中でもパソコンを使用できる画期的な製品です。メルコが1982年に発売した内蔵型プリンタバッファは市場のニーズに応え大ヒット製品となり、パソコン業界へ本格的に進出する試金石となりました。そこで新製品を

発売するにあたり商品名を一般公募し、採用されたのが「BUFFALO」です。プリンタバッファを動物の「バッファロー」になぞらえ、製品との語呂合わせの面白さとバッファローが力強く駆けるイメージが当社の躍進するイメージにぴったりなため製品ブランドとして採用しました。その後、使いやすさを提案するソリューション企業としてBUFFALOブランドを育ててきました。

メルコホールディングス株式情報(2004年9月30日現在)

決算期日	3月31日	名義書換代理人	UFJ信託銀行株式会社
定時株主總會	6月		東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
株主確定基準日	議決権行使株主 3月31日	同事務取扱所	UFJ信託銀行株式会社証券代行部
	期末配当金受領株主 3月31日		東京都江東区東砂七丁目10番11号 〒137-8081
	中間配当金受領株主 9月30日		TEL 0120-232-7111(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所第一部、 名古屋証券取引所第一部	幹事証券会社	http://www.ufjtrustbank.co.jp/ (主)大和証券SMBC (副)野村證券
証券コード	6676		みずほインベスターズ証券
発行済株式数	26,125,773株		日興コーディアル証券
株主数	13,632名		
1単元の株式数	100株		
公告掲載新聞	日本経済新聞		

インターネットによる情報提供...<http://melco-hd.jp/>

貸借対照表及び損益計算書...<http://melco-hd.jp/koukoku/>

メルコグループ <http://melco-hd.jp/>

株式会社メルコホールディングスと株式会社バッファロー(旧社名 株式会社メルコ)は、2003年10月1日に株式交換により株式会社バッファローを100%子会社とする持株会社体制に移行しました。また、同時に株式会社メルコは株式会社バッファローに社名変更しております。

株式会社 **メルコホールディングス** <http://melco-hd.jp/> (証券コード6676)

本 社 〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目11番50号(カミヤビル) TEL. 052-251-6891代 FAX. 052-241-7979

株式会社 **バッファロー** (旧社名 株式会社メルコ) <http://buffalo.jp/>

本 社 〒457-8520 名古屋市中区柴田本通四丁目15番 TEL. 052-619-1811代 FAX. 052-619-1800

東 京 本 社 〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目2番5号(栄大樓ビル) TEL. 03-3242-7777代 FAX. 03-5203-8551

本 社 分 室 〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目11番50号(カミヤビル) TEL. 052-251-6891代 FAX. 052-241-7979

国内

シー・エフ・デー販売株式会社

株式会社バッファロー物流

株式会社バッファローリース

オーブルネット株式会社

株式会社メルコオンラインエンターテインメント

株式会社メルコパーソナルサポート

海外

巴比祿股份有限公司(台湾)

BUFFALO TECHNOLOGY (USA), INC.(米国)

BUFFALO TECHNOLOGY UK LIMITED(英国)

BUFFALO TECHNOLOGY IRELAND LIMITED(アイルランド)

MELCO ASSET MANAGEMENT LIMITED(アイルランド)